

中心市街地まちづくりビジョン「つかう中津川」 アクションプラン（素案）



アクションプラン総論

令和5年12月

中心市街地まちづくりビジョン アクションプラン策定作業部会

目次

1. アクションプランについて
2. ビジョン実現に向けた「戦略」の考え方
3. 「戦略」達成に向けた「手段」の考え方



1.アクションプランについて

中心市街地まちづくりビジョンアクションプラン (以下、アクションプラン)について



このアクションプランは、令和6年度（2024年）から10年間でビジョン実現に向けて中心市街地の資源を使って実施する事業の展開順序と具体的計画をまとめたものです。

次のことに留意して策定を行いました。

①取り組んでいくべき事業の方向性を示すものであること

10年間という長期計画になることから、行政内の人事異動や関係者の変化なども予想されます。そうした中で行政と民間が連携した取り組みを進めるためにも、**各種事業の列挙に留まらず、事業の方向性や目指す姿の達成に向けて段階的に取り組んでいくことを整理し、柔軟性を保ちながらビジョンに掲げる将来像に近づいていくことを目指します。**

②短期スパンでの進捗確認、見直しができるものであること

おおむね2年程度で進捗確認を行ない、**適切な段階の進行が見られない場合には手法の見直し、事業の廃止・新設等を図り、全体に支障が出ることのないよう取り組みます。**

アクションプランで達成する将来像 (=ビジョン各柱の「目指すべき姿」)



こどものワクワクのために「つかう」

まちなかを、親子で過ごしやすいワクワクできる場所にしていきます。ひと・まちテラスをはじめ、公園や広場、河川、時にはまちなか全体を使って、親子に遊びと体験の機会をつくります。

中山道を新たな価値創造のために「つかう」

先人たちが使ってきたまちなかを、時代に合わせて使うことで磨きあげます。中山道沿いにある歴史・文化・街並みを使って、ここにしかないモノを受け継ぎ、次に繋げていきます。

学生の学びのために「つかう」

まちなかを、学生の学びをつくる居場所にします。まちをつかって学びを作り、学生とまちが共に成長する場所にすることで、常に新しい視点を持ち続け、変化していくことができます。

楽しくまちを歩くために「つかう」

まちなかを、歩きやすく住みやすくします。居住や観光において、歩きやすいまちにすることでたくさんの人を集めます。人が集まることでそこに新たな楽しみがまた生まれます。

新しく事業を始めるために「つかう」

まちなかは、挑戦者を応援し育てます。使いやすいまちなかを作り、リノベーションやスタートアップ等のサポートを行うことで、皆さんのビジネスやライフスタイルにインパクトを与えます。

まちの「玄関・ロビー」としておもてなしのために「つかう」

まちなかを、人が行き交う場所にします。駅前はまちにとっての玄関・ロビーのような場所です。まちの雰囲気や困窮を伝え、行き交う人に優しく、おもてなしのできる場所にします。

アクションプランのイメージ 「戦略」と「手段」



(例) こどものワクワクのために「つかう」

まちなかを、親子で過ごしやすいワクワクできる場所にしていきます。ひと・まちテラスをはじめ、公園や広場、河川、時にはまちなか全体を使って、親子に遊びと体験の機会をつくります。

まちを使ってこどものワクワクが実現しているという「状態」

目指す「状態」に至るための進むべき方向性と段階

= 戦略

戦略に基づいて実際に行なう事業、取組み

= 手段

現在地
(現在の状態)



2. ビジョン実現に向けた「戦略」の考え方

戦略の考え方



例えば・・・

歩きやすいまちを目指していきなり歩道整備を行なっても、そもそも歩いている人が少なかったとしたら？

⇒ 投資効果が薄く、活用もされない。

まずは、歩く人が増えるようお店や施設を呼び込んだり、公園や広場のにぎわい、イベント、情報発信など、まちに来て歩く人を増やす取り組みが先に必要になる。

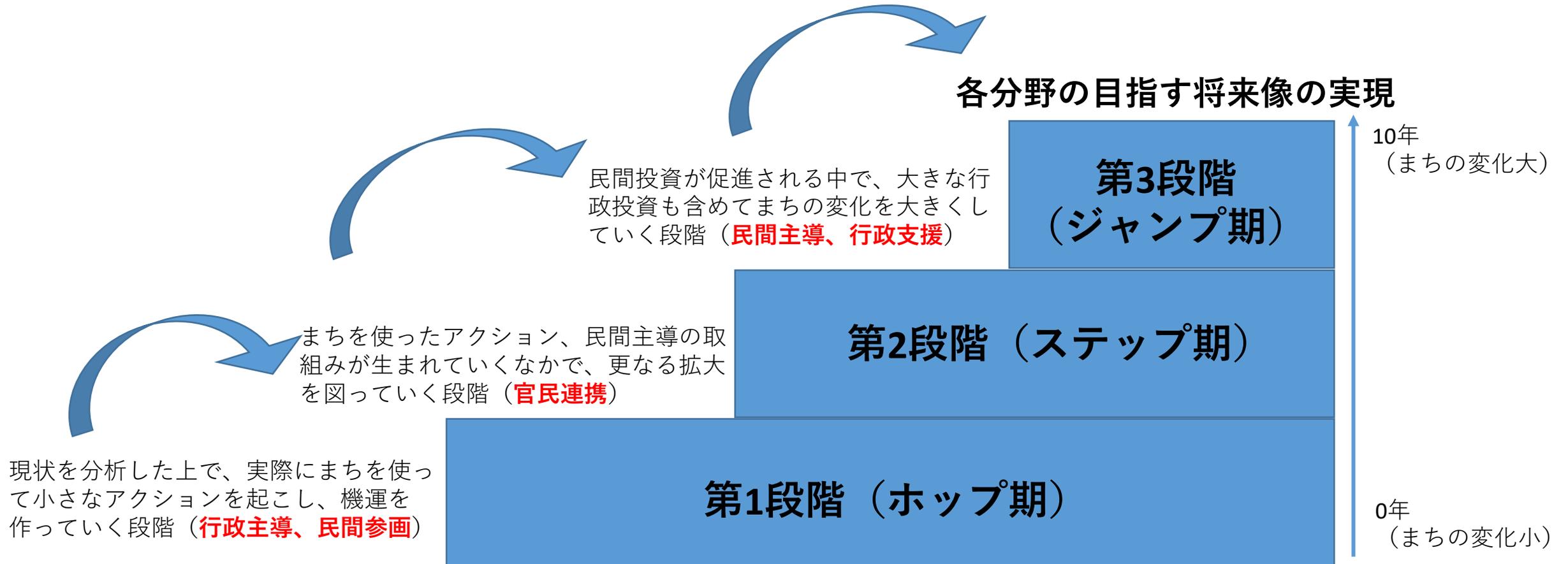


**方向性を定めた上で、
適切な順番、段階を設定して取り組む必要がある**

戦略の考え方 ～3段階の事業計画～



小さなところからはじめて、段階的に大きく育てていく ホップ・ステップ・ジャンプ戦略



戦略に対する進捗管理の方法



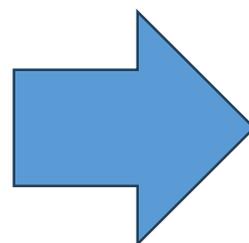
- **民間と行政では、役割やスピード感が異なるため、民間の機運が高まるタイミングを計ることが難しい。そのため、時間軸での計画設定ではなく、「状態」で示す。**
- **それぞれ示したHop・Step・Jump期における「戦略」は、どのような「状態」になれば達成となったのかを、だれが見ても同じ見解になるようにしておく必要がある。**
- **「状態」を「何がどうなった」「何ができた」という表現でより具体的に状況を示し、それを達成していくイメージで進捗管理ができるよう「進捗管理項目（達成水準）」を設定した。**

戦略に対する進捗管理の方法

例

<新しく事業を始めるHop期戦略>

創業時に必要な情報やサポートを把握し、支援メニューの見直しや新設をしています



<進捗管理項目（達成水準）>

- 過去の創業者から聞き取りやアンケートを実施し、創業時に必要な情報やサポートの把握ができた
- ニーズに沿った支援策が創設又は既存支援策が充実した

- この2つの項目を満たしたら「戦略」の達成とし、次の段階へ進む
- 戦略により1~3の項目が設定されている。

戦略に対する進捗管理の方法



- **Jump期は、Hop期・Step期の進捗状況をみながら進捗管理項目を設定する**
 - ・ Hop期・Step期の過程において、状況が変化することが予想される。
 - ・ 状況に応じた進捗管理項目を設定し、より効果的な手段が実施できるようにする。
- **進捗管理は、外部（民間）からの視点を取り入れて行う**
 - ・ 民間の視点から、官民が連携して取り組んでいくアイデアや戦略を得る。
 - ・ 行政と民間事業者との「橋渡し」的な役割を担う。

戦略に対する効果測定



- **数値で測定できるものは数値で示す。** できる限り、すでに実施をしている調査を用いて比較できるようにする。

例：歩行者通行量調査
新規出店者数
地価公示価格

- **意識の変化を測るものは、アンケートを実施して効果測定する。**

例：こどもがワクワクする場所が変わった
歩きやすくなった

- アンケート項目は、将来にわたって同じ設問とすることで効果を測る
- アンケートは毎年、同じ時期に実施をする
- ※ アンケート項目は現在検討中

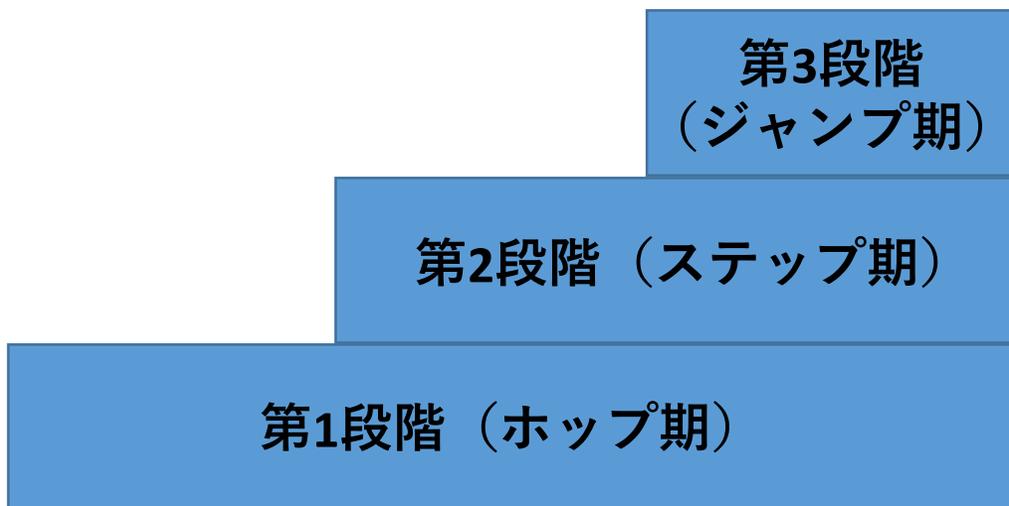


3. 「戦略」 達成に向けた 「手段」 の考え方

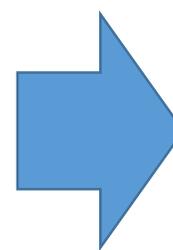
手段の考え方



ホップ・ステップ・ジャンプ戦略



- ホップ期でやること (例)
行政であれば・・・
- ・〇〇補助金の創設
 - ・〇〇支援事業
 - ・〇〇の制度改訂
 - ・〇〇の検討、調査



戦略達成の
ための「手段」

各期で設定した段階まで至らない、進捗が思わしくない場合

→手段を見直す

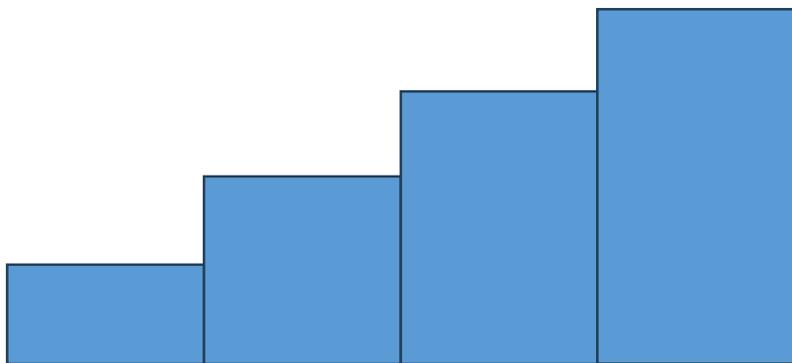
手段の方法について



事業タイプ

(主に行政が単独で行うもの)

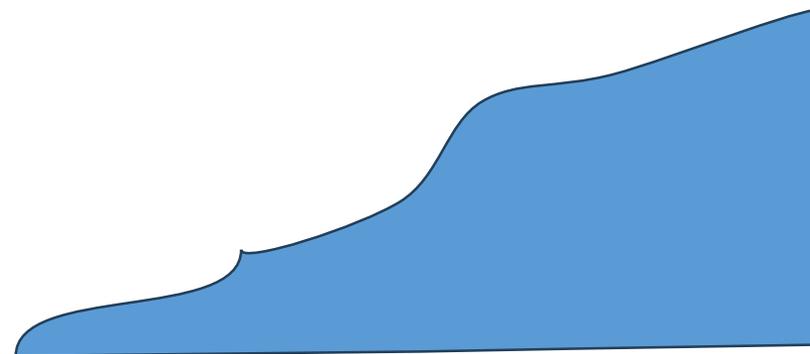
予算とスケジュールの管理ができる手段で、目標などの設定（KPI）が数字等で表現できる。ただし民間の動きに合わせてようとすると事業化するまでが遅すぎたり、逆に年度ごとに区切られてしまっていることから成熟する前に結果を求められるなど、協働による事業には向き不向きがある。



プロジェクトタイプ

(主に行政と民間が協働で行うもの)

目的を共有しそのための活動を民間と協働で行う手段です。目的のためにどんなことをするのか考え実施することで、目的の達成と共感を増やしていきます。ただし、様々な主体や個人が一緒に取り組み、行政も民間と協働で行うことからスケジュールが組み立てにくく、予算も年度で簡単に区切ることがしにくい手段でもあります。

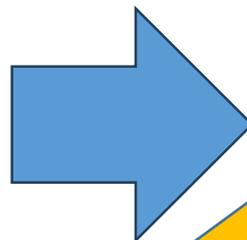


戦略達成のために行う手段

例

<新しく事業を始めるHop期戦略>

創業時に必要な情報やサポートを把握し、支援メニューの見直しや新設をしています



<進捗管理項目（達成水準）>

- 過去の創業者から聞き取りやアンケートを実施し、創業時に必要な情報やサポートの把握ができた
- ニーズに沿った支援策が創設又は既存支援策が充実した

進捗管理項目からやるべきことを検証

- まちなかで過去に創業に関する市の補助金を受給した事業者から聞き取りを実施
 - 初年度は自己資金や初期補助金などがあり経費は賄えたが、2年度目に販売促進やホームページ整備などの宣伝広告に充てる経費捻出が難しく、苦慮している。
- ⇒ 2年目には、販売促進や宣伝広告に特化した補助金制度を創設 ⇒ 「**中心市街地チャレンジ補助金**」

戦略達成のために行う手段



- **手段は目標指標をそれぞれに設定**

例：新規出店者数 ○件/年

自主イベントの開催回数 ○回/年

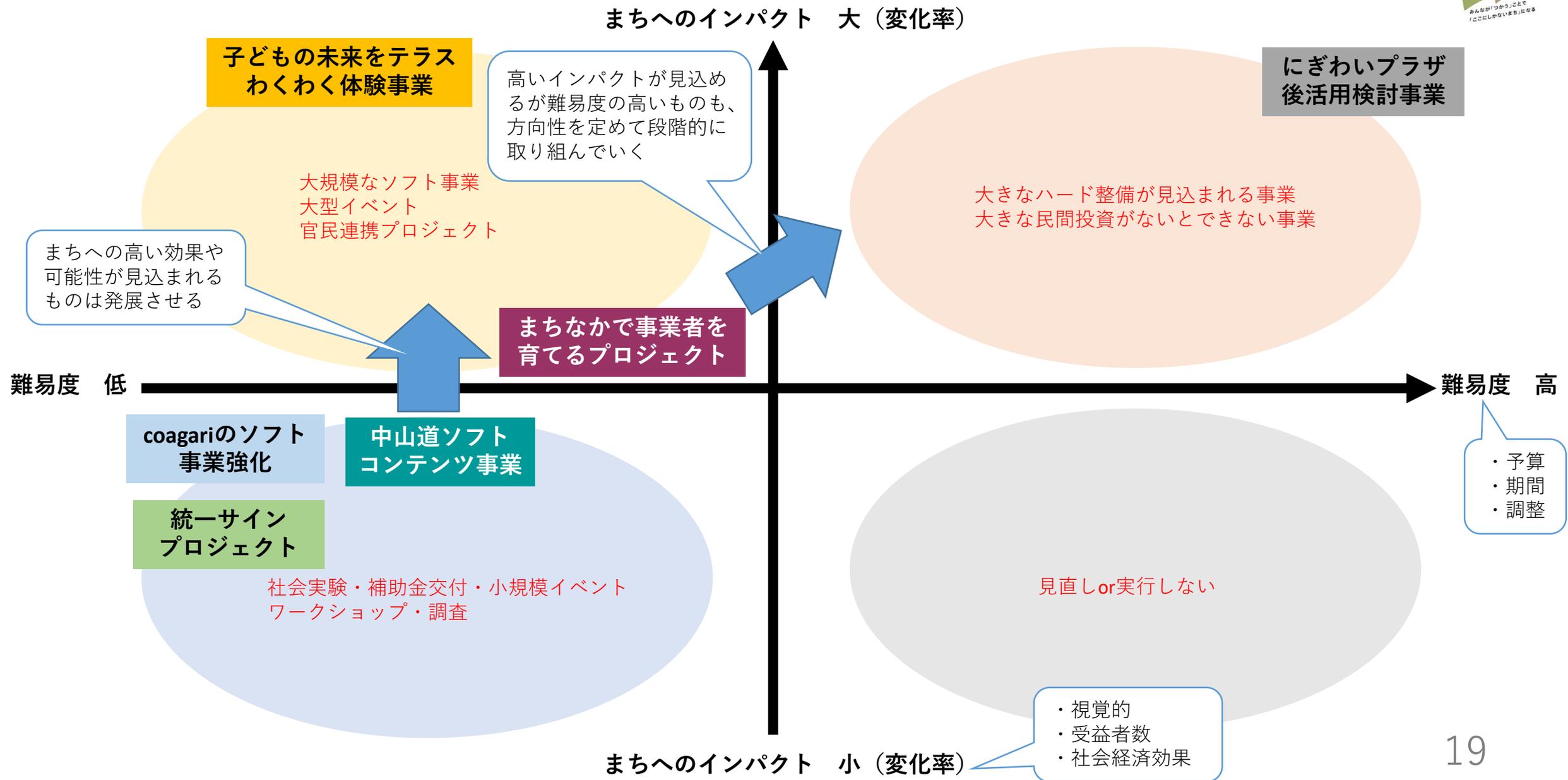
R○年度末までに○○制度の制定が完了

- **手段は、だれが・何を・何のために・どのように行うかを示し、進められるようなものとする**

- **手段は短い期間（1～2年）で見直しを行う**

- ・ その時々合致した内容となるよう、ブラッシュアップを行う。
- ・ 他の手段や戦略との相互作用により、効果を高める。

手段のイメージ(主な事業)



< 付録 > 「つかう中津川」アクションプラン策定メンバー

※順不同・敬称略

■策定会議委員

- ・渡邊 卓 ・勝野 安和 ・長谷川 暢之 ・岩木 健 ・前田 雅生 ・段 厚美 ・原 利浩
- ・松井 嘉之 ・早川 泰典 ・小椋 匡敏 ・張山 知宏

■策定作業部会員

- ・小嶋 康修 ・丹羽 悠 ・小栗 康太郎 ・田口 亮太 ・谷口 真二郎 ・安藤 嘉之 ・大山 徹
- ・河合 一輝 ・柴田 祐希 ・大島 友香 ・熊崎 真司 ・田口 未彩 ・臼井 雄也 ・金澤 一紀

■協力事業者

- ・（一社）ヒガシミノ団地 ・東京工業大学真野研究室 ・（株）まちなカラボ ・（独）都市再生機構中部支社

■事務局

- ・丹羽 栄作 ・土屋 敦

■策定期間 令和5年6月～令和6年 月

■会議開催回数 策定会議 3回・策定作業部会 13回・事務局会議 6回 ※R5.12現在